

東証スタンダード市場・福証  
証券コード：6998

決算補足説明資料

# 2026年3月期（2025年度） 第3四半期決算概要

2026年2月5日



## はじめに

当社商品の概要

## 2026年3月期（2025年度）第3四半期業績概要

1. 今回発表のポイント
2. 連結業績の概要
3. 主な経営指標
4. セグメント別の状況
5. 財務の状況（連結）
6. 今後の見通し

## 参考資料

1. 業績の推移（連結）

# 当社商品の概要

# 当社商品の概要

## 「粉末冶金技術」を駆使し、タングステンを軸に多様な特性を持つ高機能商品を創出

1930年代

1950年代

1980年代

2000年代

### 粉末冶金技術

タングステンを銅や銀を組み合わせ、**通電性や耐アーク性を備えた合金を開発**  
熱に強いタングステンの特徴を用いた電球フィラメントが、当社の出発点

### 電気・電子製品

(タングステン製品)



ブレーカー用電気接点

### 金属材料製品

(タングステン製品)



電球用タングステンワイヤー製品

タングステンカーバイドとコバルト等を組み合わせ、**耐摩耗性や耐腐食性に優れた合金を開発**

### 超硬合金製品

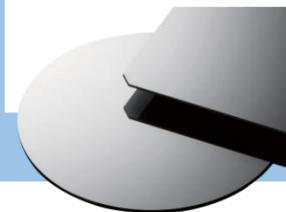
(タングステンカーバイド合金)



NTダイカッター

### セラミックス製品

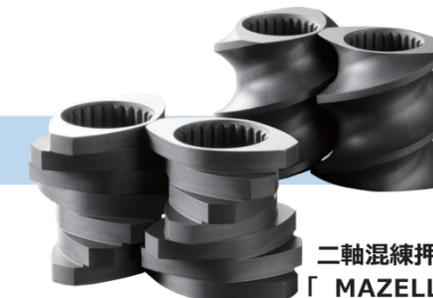
(セラミックス材料)



ハードディスクドライブ(HDD)用  
磁気ヘッド基板

粉末冶金技術を生かし、タングステン以外のチタンやアルミニウム等からなる**緻密な**ファインセラミックスを開発

サーバー・クラウド



二軸混練押出機用部材  
「MAZELLOY®」

サニタリー用品



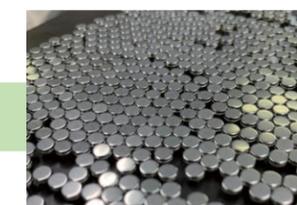
自動車の部品



カテーテル治療



プラズマ電極



EVリレー用接点



医療関連カテーテル用タングステンワイヤー製品

## 様々な場面で暮らしを支える当社の製品

### ■ 半導体・電子部品市場

サーバーなどのハードディスクドライブの読み取り装置を支える基板や、「産業のコメ」といわれ、電子デバイスの基本材料となる半導体にも、その製造過程で当社の製品が使われている。



### ■ 衛生用品機器・医療用部品市場

カテーテル用のブレードチューブや電気手術用電極など、医療分野でも当社の製品が使われている。



皆様の健やかな暮らしを支える衛生用品の製造工程でも、当社の製品が使われている。



### ■ 自動車部品市場

先端技術を駆使した自動車の部品や、製造工程にも当社の製品が使われている。

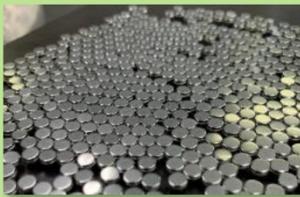
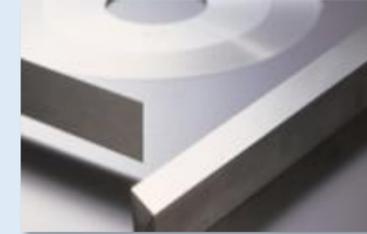


### ■ 産業用機器・部品市場

より効率的な生産への改善や、安全面、環境面への管理に対し、信頼性の高い部品が求められています。高品質な材料を活かし、当社の様々な製品がこの分野でも活躍している。



## 粉末冶金技術を生かした商品群を4つのターゲット市場に展開

ターゲット市場	事業セグメント	
	機械部品事業	電機部品事業
衛生用品機器 ・医療用部品市場	 <p>N Tダイカッター 国内No.1・世界No.2シェア(当社調べ) <b>新材料を開発</b></p>	 <p>医療関連カテーテル用 タングステンワイヤー製品</p>
半導体・電子部品市場	 <p>ハードディスクドライブ(HDD) 用磁気ヘッド基板 世界 No. 1 シェア(当社調べ)</p>	 <p>プラズマ電極 給電端子部品</p>
自動車部品市場	 <p>二軸混練押出機用部材 「MAZELLOY®」 <b>新商品</b> (マゼロイ)</p>	 <p>抵抗溶接用電極 (電装部品溶接用) EVリレー用接点 </p>
産業用機器・部品市場	 <p>産業用設備向け耐摩耗部材</p>	 <p>ブレーカー用電気接点</p>

# 2026年3月期（2025年度） 第3四半期 業績概要

# 1. 今回発表のポイント

## 2026年3月期（2025年度）第3四半期決算の総括

- 当第3四半期の連結業績は、前年同四半期比で減収・減益（ほぼ横ばい）。

### 経済環境

- 雇用・所得環境の改善やAI関連需要を受けて設備投資が堅調に推移し、景気は緩やかな回復基調。
- 物価上昇に加え、中国経済の減速や中国との緊張の高まり、さらには米国による追加関税等も懸念され、先行きは依然として不透明な状況が継続。

### ターゲット市場の概況

衛生用品機器・医療用部品市場	衛生用品機器は拡販活動が進むなど好調に推移し、医療用途においても需要が伸び好調に推移。
半導体・電子部品市場	一部顧客の需要の一服等もあったが、半導体の旺盛な設備投資需要等に支えられ堅調に推移。
自動車部品市場	自動車市場が回復基調にある中、電極需要が好調に推移。
産業用機器・部品市場	一部商品が堅調に推移したが、中国向けの大幅な需要の減少が大きく、低調に推移。

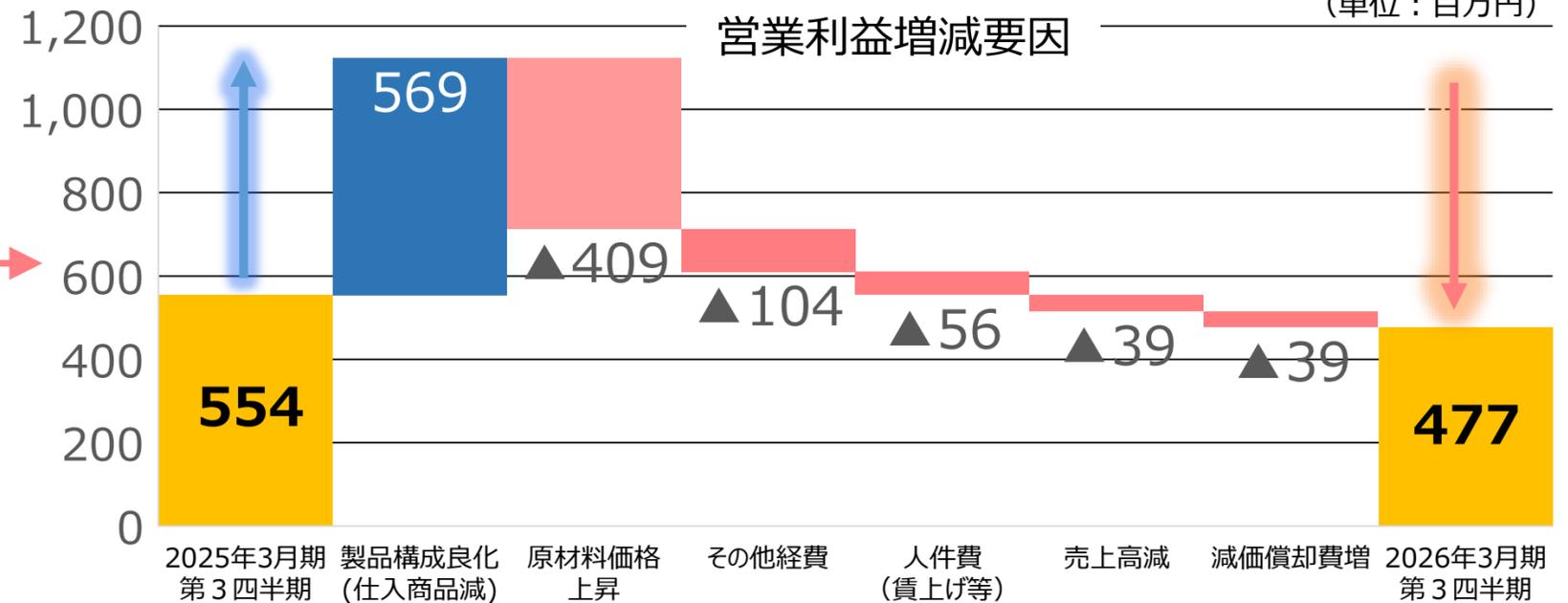
# 1. 今回発表のポイント

## 今後の見通し

ターゲット市場の 動向	衛生用品機器・ 医療用部品市場	• N T ダイカッターが、引き続きまとまった需要があり、好調に推移すると見込んでおり、医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品も堅調に推移すると見込む。
	半導体・電子部品市場	• ハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板が引き続き好調を維持すると見込む。
	自動車部品市場	• 電装部品溶接用の抵抗溶接用電極は顧客の量産化の需要等もあり堅調に推移すると見込む。
	産業用機器・部品市場	• 二軸混練押出機用の金属部品は、需要が若干後ろ倒しで推移すること等を見込む。
中国輸出規制の 影響	• 原材料であるタングステンの調達にコストを要しているものの、当社グループでは、一定の在庫を確保しており、直ちに生産へ影響を及ぼすことはない。 • 引き続き、仕入先からの調達およびリサイクル粉末の活用の検討等、継続的な生産に向け対応していく。	
業績予想について	• 当第3四半期決算時点での業績は、当初想定より営業利益は若干下振れで推移しているが、経常利益と四半期純利益は、想定通り推移しており、第4四半期も同様の傾向で推移すると見込む。 • 2025年5月14日に公表した2026年3月期通期の連結および個別業績予想値に変更はない。	

## 2. 連結業績の概要

	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	(単位：百万円)	
			対前年比 増減額	増減率 (%)
売上高	9,331	9,263	△68	△0.7
営業利益	554	477	△77	△14.0
経常利益	778	757	△20	△2.7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	543	543	△0	△0.1



連結売上高	92億6千3百万円 (前年同四半期比0.7%減)	<p>連結売上高は減収。 (機械部品事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>注力商品であるハードディスクドライブ (HDD) 用磁気ヘッド基板や、NTダイカッターの需要が堅調に推移したものの、二軸混練押出機用の金属部品が、中国向けの需要で大幅に減少したこと等により、減収。</li> </ul> <p>(電機部品事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品や抵抗溶接用電極が堅調に推移したほか、半導体製造装置に用いられる給電端子部品の需要の拡大等により増収。</li> </ul>
営業利益	4億7千7百万円 (同 14.0%減)	<ul style="list-style-type: none"> <li>原材料価格の上昇や中国輸出規制の強化に伴う調達コストの上昇等により、減益。</li> </ul>
経常利益	7億5千7百万円 (同 2.7%減)	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連会社の持分法による投資利益や為替差益が増加したものの、営業利益が減少したこと等により、減益。</li> </ul>
親会社株主に帰属する四半期純利益	5億4千3百万円 (同 0.1%減)	<ul style="list-style-type: none"> <li>経常利益の減少等により、減益。</li> </ul>

### 3. 主な経営指標

	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期
売上高営業利益率	8.4	8.9	4.6	5.9	↓ 5.2
自己資本四半期純利益率 (ROE)	6.8	7.0	4.2	4.5	↓ 4.2
総資産経常利益率 (ROA)	6.3	6.7	3.6	4.5	↓ 4.2
1株当り四半期純利益	146.20	157.57	100.35	112.21	↓ 111.96

- 各利益が前年同期比で減益となったことにより、経営指標は低下。

(注) 2024年1月1日付けで普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。  
2022年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

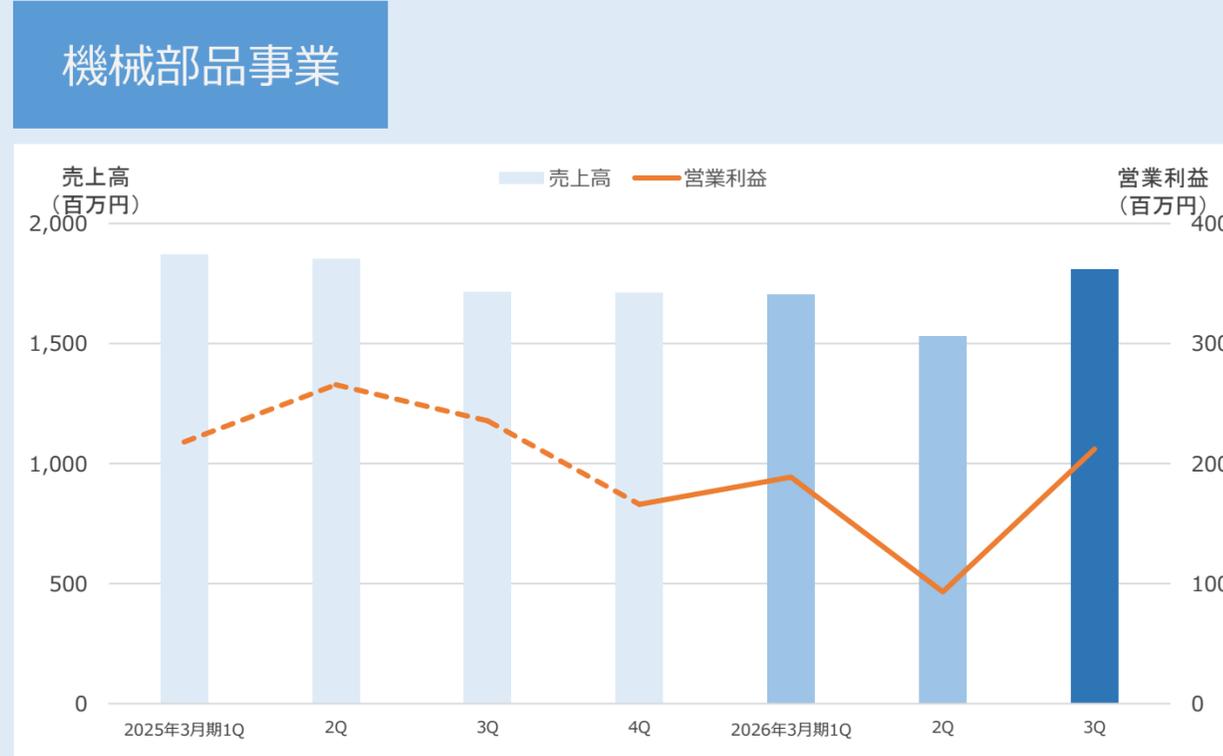
# 4. セグメント別の状況

## ■ セグメント業績の概要

(単位：百万円)

対前年比  
増減額 増減率 (%)

		2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	対前年比	
				増減額	増減率 (%)
機械部品 事業	売上高	5,437	5,042	△394	△7.3
	営業利益	719	493	△225	△31.3
電機部品 事業	売上高	3,917	4,234	316	8.1
	営業利益	270	415	145	53.7
調整額	売上高	△22	△13	9	-
	営業利益	△434	△432	2	-
全社	売上高	9,331	9,263	△68	△0.7
	営業利益	554	477	△77	△14.0



	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期
売上構成比	58.1%	54.4%
営業利益率	13.2%	9.8%

#### 前年同四半期比

- 売上高は、7.3%の減収
- 営業利益は、31.3%の減益

#### 四半期推移

- 3QはNTダイカッターやHDD用磁気ヘッド基板が売上をけん引し回復。



	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期
売上構成比	41.9%	45.6%
営業利益率	6.9%	9.8%

#### 前年同四半期比

- 売上高は、8.1%の増収
- 営業利益は、53.7%の増益

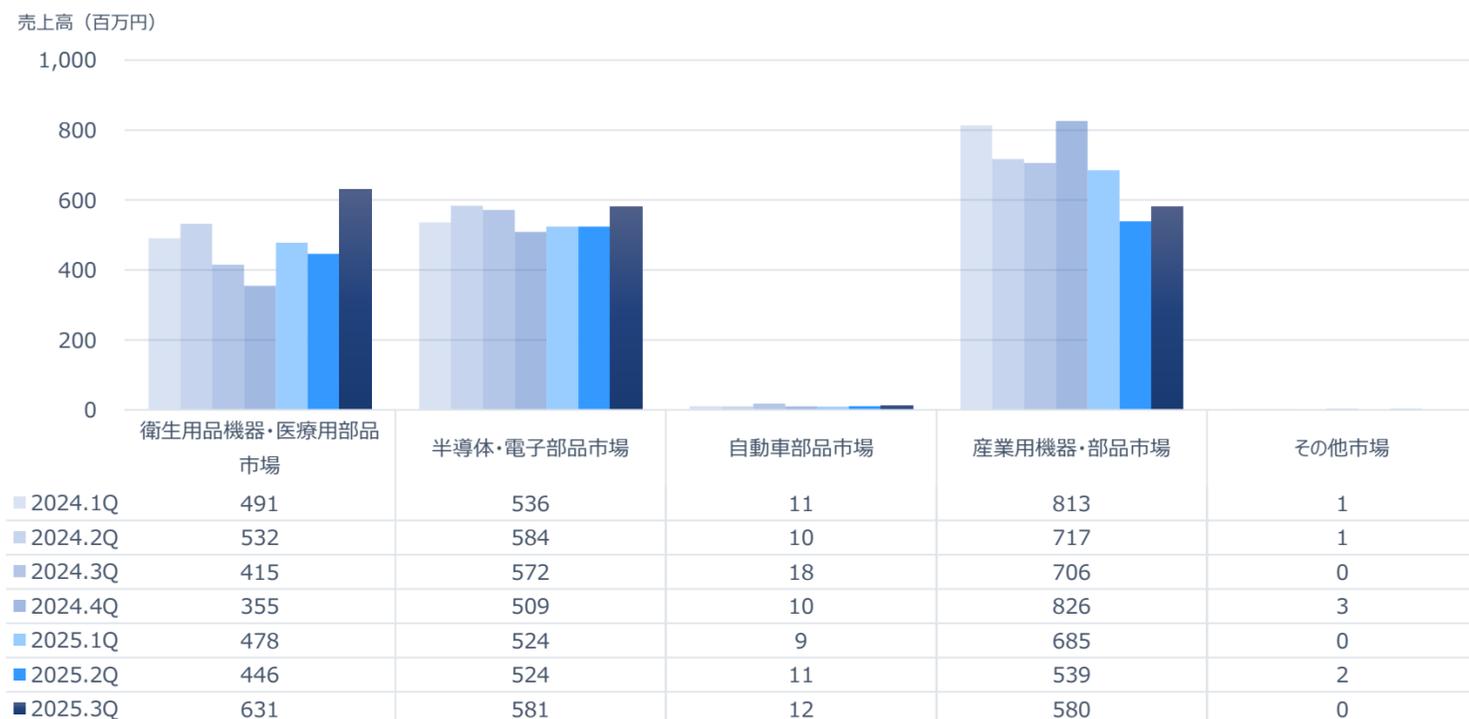
#### 四半期推移

- 需要はほぼ横ばいで推移しているが、原材料価格の高騰により利益率が悪化。

- 機械部品事業は前年同四半期比 減収減益
- 電機部品事業は前年同四半期比 増収増益

# 4. セグメント別の状況

## ■ ターゲット市場別業績・主要商品の状況



NTダイカッター



HDD用  
磁気ヘッド基板



二軸混練押出  
機用の金属部品

製鉄所向けの耐摩  
耗部材

## ターゲット市場の主要な商品の状況 (前年同四半期比)

### ■ 衛生用品機器・医療用部品市場

#### NTダイカッター

新材料や新構造ユニットの拡販、顧客の大幅な需要増等により堅調に推移し、増収。

### ■ 半導体・電子部品市場

#### 情報関連機器のハードディスクドライブ (HDD) 用磁気ヘッド基板

データセンター等で使用される大容量HDDの需要が堅調に推移し、増収。

#### 電子機器製造用の金型製品

一部顧客の需要の一服等により、低調に推移。

### ■ 産業用機器・部品市場

#### 製鉄所向けの耐摩耗部材

上期が好調だったことにより堅調に推移し、増収。

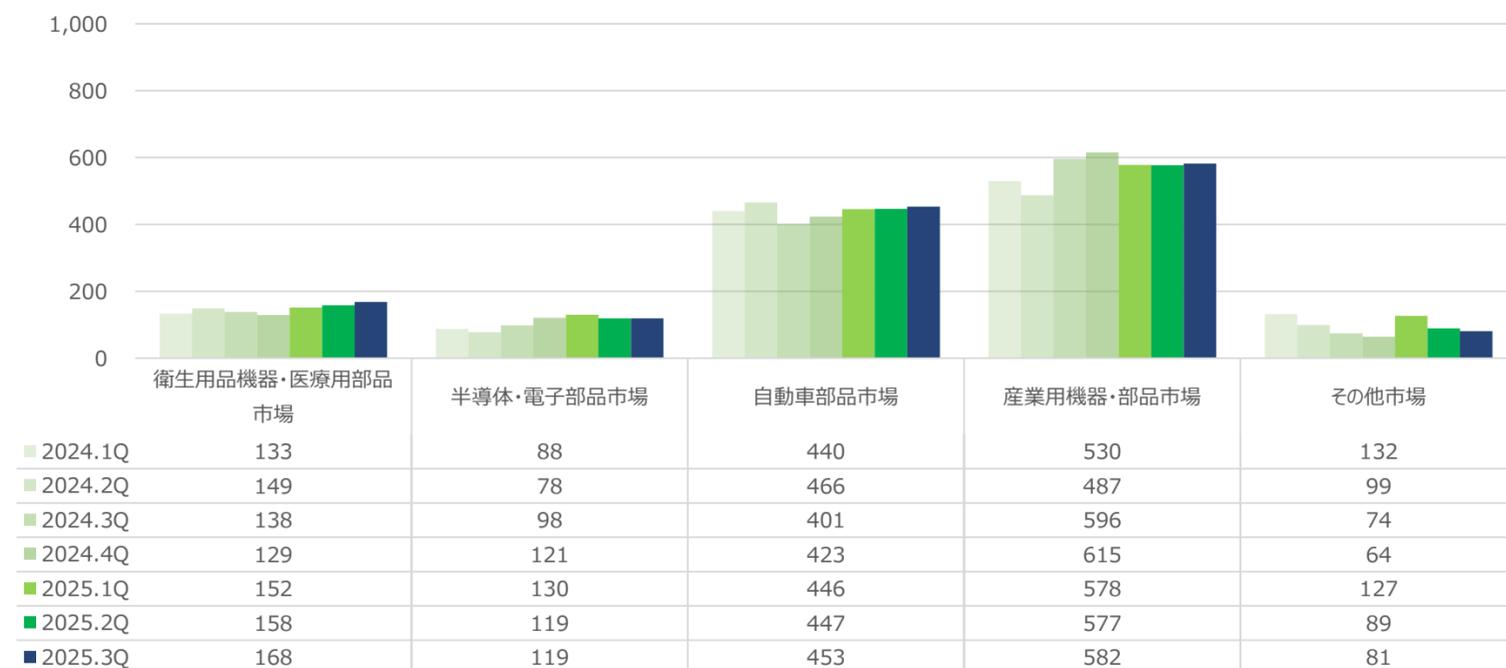
#### 二軸混練押出機用の金属部品

量産化に向けた製品展開を継続しているが、前連結会計年度までの中国向けのまとまった需要が一服したこと等により、大幅な減収。

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

# 4. セグメント別の状況

売上高 (百万円)



医療関連カテーテル用タングステンワイヤー製品

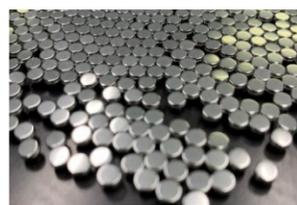
半導体製造装置に用いられる給電端子部品



抵抗溶接用電極



ブレーカー用電気接点



EVリレー用接点

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

## ターゲット市場の主要な商品の状況 (前年同四半期比)

### ■ 衛生用品機器・医療用部品市場

医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品

北米やその他の地域向けでの好調な需要増に加え、価格改定や為替の影響により、増収。

### ■ 半導体・電子部品市場

半導体製造装置に用いられる給電端子部品

半導体製造装置の設備投資需要の増加に伴い、増収。

### ■ 自動車部品市場

電装部品溶接用の抵抗溶接用電極

自動車市場が回復する中で、電極需要も好調に推移し、増収。

EVリレー用接点

需要は減少傾向にあるものの、一部でまとまった受注があったことから横ばいで推移。

### ■ 産業用機器・部品市場

産業用設備向けのブレーカー用電気接点

原材料価格の高騰が継続する中で、販売価格への転嫁を行ったこと等により、増収。

# 5. 財務の状況（連結）

	2025年3月期	2026年3月期 第3四半期	(単位：百万円) 対前年比 増減額
総資産	17,633	18,332	698
負債	5,070	5,197	127
純資産	12,563	13,134	570

## 主な経営指標

	2025年3月期	2026年3月期 第3四半期
自己資本比率（%）	71.2	71.6
1株当たり純資産（円）	2,588.46	2,702.10

	主な増加要因 (単位:百万円)	主な減少要因 (単位:百万円)
<b>総資産</b> <b>183億3千2百万円</b> (前連結会計年度末比6億9千8百万円増)	原材料及び貯蔵品 +355 投資有価証券 +302	—
<b>負債</b> <b>51億9千7百万円</b> (同1億2千7百万円増)	電子記録債務 +195 契約負債 +169	支払手形及び買掛金 △241
<b>純資産</b> <b>131億3千4百万円</b> (同5億7千万円増)	利益剰余金 +300 その他有価証券評価差額金 +195	—

# 6. 今後の見通し

経済環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>緩やかな成長が続く見通しだが、米国の関税政策、中国経済の停滞継続、さらには地政学リスクに伴う原材料価格の高止まり等、不確実性が続く想定。</li> </ul>	
ターゲット市場の見通し	衛生用品機器・医療用部品市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>N T ダイカッターが、引き続きまとまった需要があり、好調に推移すると見込んでおり、医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品も堅調に推移すると見込む。</li> </ul>
	半導体・電子部品市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板が引き続き好調を維持すると見込む。</li> </ul>
	自動車部品市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>電装部品溶接用の抵抗溶接用電極は顧客の量産化の需要等もあり堅調に推移すると見込む。</li> </ul>
	産業用機器・部品市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>二軸混練押出機用の金属部品は、需要が若干後ろ倒しで推移すること等を見込む。</li> </ul>
中国輸出規制の影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>原材料であるタングステンの調達にコストを要しているものの、当社グループでは、一定の在庫を確保しており、直ちに生産へ影響を及ぼすことはない。</li> <li>引き続き、仕入先からの調達およびリサイクル粉末の活用の検討等、継続的な生産に向け対応していく。</li> </ul>	
業績予想について	<ul style="list-style-type: none"> <li>当第3四半期決算時点での業績は、当初想定より営業利益は若干下振れで推移しているが、経常利益と四半期純利益は、想定通り推移しており、第4四半期も同様の傾向で推移すると見込む。</li> <li>2025年5月14日に公表した2026年3月期通期の連結および個別業績予想値に変更はない。</li> </ul>	

(%表示は、対前期増減率)

連結業績予想	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益 円 銭
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
<b>通 期</b>	<b>12,800</b>	<b>3.3</b>	<b>700</b>	<b>1.6</b>	<b>960</b>	<b>0.8</b>	<b>700</b>	<b>3.4</b>	<b>144.33</b>



# 参考資料

# 1. 業績の推移（連結）

## 経営成績（連結）

（単位：百万円）

区分	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期
売上高	8,837	9,812	8,374	9,331	9,263
営業利益	744	872	383	554	477
経常利益	962	1,090	605	778	757
親会社株主に帰属する四半期純利益	704	761	485	543	543
純資産	10,472	11,336	11,803	12,486	13,134
総資産	15,755	16,970	16,893	17,621	18,332

## 経営指標（連結）

区分	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期
売上高営業利益率 (%)	8.4	8.9	4.6	5.9	5.2
自己資本比率 (%)	66.4	66.7	69.8	70.8	71.6
1株当たり純資産（BPS）（円）	2,168.93	2,341.52	2,434.85	2,572.58	2,702.10

（注） 2024年1月1日付けで普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。  
2022年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しております。

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。